「学童疎開」「不安と飢えにさいなまれた日々」

黒柳徹子さんの動画を見て

【３年生】

・栄養失調はやせるだけでなく、できものが全身にでき、指と爪の間にうみができるそうで、聞くだけでもその痛みがまざまざと伝わってきた。

（栄養失調の症状を）なおす薬もないし、食べ物もない、本当に大変だ。戦争では食事をえらぶことはできないと感じて悲しくなった。

そかいに行き、帰ってきたら、家・家族がなくなっているだなんて考えられないほど辛い。

・黒柳徹子さんのエピソードや表情を見て、すごく心がいたかったし、苦しかった。

・外国の人が言っていた地獄（連れ去られた女の子が赤ちゃんを背負い、自分の家のほうに銃を向けている）が自分の想像以上で怖かった。

・15 歳くらいで子を産んで、武器を持たされている人がいることが驚いた。自分たちがちゃんと教育を受けれて、ゲームやスマホなどで遊ぶことができるということは当たり前ではないとわかった。今の生活を大切にしようと思った。

・家族でいるところに銃をもった人が来て、親を殺して子どもを連れ去って、その子を戦争に利用するのが、とてもひどいなと思った。何万人もいる中で小児科医が 2 人しかいなくて、医師も大変そうだし、子どもも診てもらえなくて大変そうだと思った。

・戦争をする大変さ、つらさをしっかり心に刻んで、もう戦いをしないようにしていかなければいけないと思った。

・今もどこかで戦争や紛争がたえないのが悲しいです。争いを起こすか起こさないかは大人が決めることなので、子供たちはどうすることもできないことが悲しいです。
戦争は何もいいことがない。早く争いがなくなってほしい。

軍力増強のために親を殺して子をさらい、軍に入れるという悲しいことが今でも起こっていることを知った。自分の意志とは別に非情な行為を犯すそんな恐ろしいことが戦争では多く起こっている、戦争というものの恐怖を改めて強く感じた。戦争を起こさないためには、一人一人の戦争はしないという強い意志が必要だと思った。そのためには、黒柳さんがおっしゃったように、多くの人々に確かな教育を行き届かせることがとても大切ということに気づくことができた。

【２年生】

・戦争で栄養失調で苦しむ人たちがいたこと、戦争が本当にいらなくて、むぼうということがわかった。

・自分も今は普通にご飯が食べれているけど、昔はそうじゃなかったことをしっかり理解して、ごはんをたべるようにしたい。黒柳さんも言っていたとおり、もう苦しいおもいはしてほしくないから、戦争紛争は早くなくなってほしい。

・するめをもらうために、新しく軍隊の兵に送り出すときに旗を振ったが、それは戦争に人を送り出したということで（黒柳さんは）罪悪感を感じていた。

・戦争を止めることは難しいことだけど、自分たち人間が取り組めることを探すことで、戦争は止めることはできるのじゃないかと思った。

・戦争を経験した黒柳さんだからこそ、戦争のことをはっきりと伝えることができ、覚えているからこそ戦争や内戦で苦しんでいる人々の気持ちに寄り添うことができるのだろうなと思った。

黒柳さんは戦争に行く人に「いってらっしゃい」と言うべきではなかったと後悔していた。あとのことを（あとになってこのことを）考え直すことができる人はすごいなと感じた。

全ての国が日本と同じように平和ではないと感じた。戦時中の徹子さんと同じように、今もアフリカの一部の国では食べる物がなく、帰る家が無い人たちがいます。しかし、今の日本はとても平和です。「トットちゃんハウス」を作ったように、私達にもできることがあれば、やってみることが大切だと思った。

【１年生】

・戦争しているときは今みたいにお腹いっぱいたべれていなかったと知った。

・戦争の時は栄養失調で身体におできができたり、つめの間がうんだりするほど食べ物がなくて、すごく大変なんだと思った。

・魚を 3 匹くらいたべたら（栄養失調による）ぶつぶつや肌のずるむけが治ったという話では、食事をしっかりとらないとなと改めて感じさせられた。

・たんぱく質が大事なんだと思った。

・お父さんは戦争にいって、生きているかもわからなく、不安がたくさんあったということがわかった。

・自分がその時代に生きていたら戦争に行かないといけないし、工場で働かないといけなかったらいややけど、日本を守るってなったらいくしかないなーと思った。

人々がたくさんいるのに病院には数人しか医師がいなかったという話が印象に残った。そこでは勉強をする環境とかが悪かったんだなと思った。今の話を動画で見て思ったのがやっぱり戦争というのは人が苦しむんだと思った。

・戦争の時は眠れないほどの痛みを病院もなく手当てができずに我慢をして生きている人がいることを初めて知った。

・終戦したあとに後悔や罪悪感を背負って生活していたんだなと思った。

・スーダンで子どもをさらって兵士にして銃を持たせたのは最低やと思う。戦争が終わってもどこからつれてきたか、わからない、小さい子やから家に帰られないことがわかった。

自分がこの時代に生まれていたら戦争に行くことになっているかもしれないし、食べ物もなくて苦しい生活をすることになっていたと思う。今自分がどれだけ幸せな生活ができているのかを改めてわかった。

戦争がどれだけひどいことかを実感した。子どもたちは学童疎開などで親と離れ離れになり、食料も少なくて毎日飢えに苦しむ日々、大人は強制的に戦いに行かされる。こんなことはこれから絶対にあってはいけません。